

高エネルギー加速器セミナーOHO'16開催報告

9月6日～9日、高エネルギー加速器研究機構において高エネルギー加速器セミナーOHO'16が開催されました。企画・運営を担当された高エネルギー加速器研究機構・加速器研究施設の小林幸則教授にお話を伺いました。

高エネルギー加速器セミナー、OHOは1984年以来、将来の高エネルギー加速器をにう若手研究者の育成と、一般企業の研究者の加速器科学への理解を深めることを目的として、毎年開催されてきました。日本の加速器科学分野の第一線で活躍中の各分野の専門家が、その年のテーマ毎に最先端の加速器科学を基礎から講義しています。



講義風景

プログラムには施設見学もあり、測定器開発室、Belle-II、放射光施設(PFリング)、そしてコンパクトERLを見学しました。講義で説明された技術が実際の施設でどのように使われているかを見る事が出来たと参加者には大変好評で、見学中にも熱心に質問している参加者の姿も見受けられました。



施設見学

2016年9月6日～9日までの4日間にわたり「量子ビーム計測～基礎から最先端の応用まで～」と題して、KEKに於いて開催され、企業、研究所、技術者、大学などの研究者、大学院生、大学生など86名が全国から参加しました。

「量子ビーム計測」をテーマにしたOHOセミナーは、33年間の歴史の中で初めての試みで、高エネルギー加速器で生成される荷電粒子や中性粒子、放射光などの量子ビームをとらえる検出器についての基礎、加速器と関連の深い放射線検出及び放射線防護、さらには最先端の医学応用研究やニュートリノ研究まで、現在最前線で活躍している8名の講師がわかりやすく講義を行いました。

今年のOHOの特筆すべき点は、参加者がすべての講義を熱心に拝聴していたこと、講義後には参加者から講師への質問が例年より多く、活発に質疑・応答がされたことでした。質問に対し時間を惜しむことなく答えている講師の先生の姿がとても印象的で、「学生向けにとってもわかりやすい講義だった」という声も聞こえてきました。

またOHOの呼びものの一つである「夜話」(講義ではなく先輩研究者の方の経験談などを伺う)では、高エネルギー加速器研究機構・名誉教授より「ミュオン透視」について、大変興味深いお話をさせていただきました。

TIA連携大学院サマー・オープン・フェスティバルの一環となり、他機関と連携しながら、若手研究者育成のさらなる可能性を広げていくことが期待されています。



集合写真

開催日	2016年9月6日(火)～9日(金)
場所	高エネルギー加速器研究機構 3号館1階セミナーホール
主催	高エネルギー加速器研究機構、総合研究大学院大学、公益財団法人高エネルギー加速器科学研究奨励会
参加人数	86名(内 大学院生22名、学部生6名)

TIA連携大学院 News Letterのバックナンバーは、ウェブサイトでご覧になれます。

<http://tia-edu.jp>



●編集・発行・連絡先:

国立大学法人 筑波大学 TIA推進室

〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1 Tel. 029-853-5891 tia-edu@un.tsukuba.ac.jp